

Ⅲ ヒアリング調査からみた企業の声

1 製造業

(1) 一般機械器具

【景況感】

- ・半導体製造装置向けの需要が継続しており、好況である。
- ・一般産業機械向けの受注は落ち着いてきたが、景況感は好況である。
- ・上海ロックダウンの影響で受注が落ち込んでおり、景況感は不況である。

【売上高】

- ・売上高は前年同期比5%増加した。
- ・売上高はほとんど変わらない。
- ・前年の半導体関連特需の反動で売上高は減少した。

【品目別の状況】

- ・半導体製造装置向けの需要は継続する見通し。
- ・自動車関連の受注が落ち込んでいる。

【受注単価】

- ・価格転嫁を一部で実施し、受注単価は上がった。
- ・OEMが中心のため、ほとんど変わらない。

【原材料価格】

- ・鋼材価格が高騰している。
- ・材料費は前年度比30%増加した。

【その他諸経費】

- ・重油、電気代が高騰している。
- ・電気代の負担が大きくなっている。

【採算性】

- ・採算性はほとんど変わらない。
- ・工場の稼働率を改善した結果、採算性は良くなった。

【設備投資】

- ・工作機械の納期が大幅に遅れている。
- ・切削加工機、旋盤加工機の設備更新を実施した。
- ・設備投資は実施しなかった。

【今後の見通し】

- ・半導体製品は、最先端技術に使用されており、今後も需要は継続する見通し。
- ・上海ロックダウンが解除され、中国国内の経済活動が戻れば良い方向に向かう。
- ・足元の受注は一般産業機械向けを中心に落ちており、どちらともいえない。

(2) 輸送用機械器具

【景況感】

- ・自動車メーカーの減産が続いており、不況である。
- ・材料費の高騰でコストが増加しており、景況感は不況である。
- ・景況感は普通である。

【売上高】

- ・売上高は前年同期比12%減少した。
- ・自動車メーカーの生産調整の影響で売上高は減少した。

【受注単価】

- ・価格転嫁の交渉が進まず、ほとんど変わらない。
- ・調達材を用いている新規受注品については価格転嫁を認めてもらっている。

【原材料価格】

- ・メーカーからの有償支給のため、ほとんど変わらない。
- ・前年比で50%以上価格が上がった。

【その他の諸費用】

- ・受注減に伴い電力費等も減少したため、全体ではほとんど変わらない。
- ・電気代が大幅に上昇した。
- ・工具関係が15%値上がりした。

【採算性】

- ・売上高減少に伴い採算性は悪くなった。
- ・設備投資等の合理化により、採算性はほとんど変わらない。
- ・コスト増加分を売上高でカバーしており、全体で採算性はほとんど変わらない。

【設備投資】

- ・工場の空調工事を実施した。
- ・増産を目的に旋盤機械を購入した。

【今後の見通し】

- ・部材不足の影響は大きく、農機具向けの受注も落ちており、悪い方向に向かう。
- ・自動車の減産が続いており、どちらともいえない。
- ・自動車メーカーの増産計画次第だが、良い方向に向かうとみている。

(3) 電気機械器具**【景況感】**

- ・5G関連の受注が増加しており、景況感は好況である。
- ・景況感は不況である。

【売上高】

- ・5G関連の新規事業が軌道に乗り、前年同期比で売上高が増加した。
- ・前期比、前年同期比ともに売上高が減少した。

【原材料価格】

- ・原材料価格は上がった。
- ・薬品、部材価格が高騰している。

【その他の諸経費】

- ・電気代が高騰している。
- ・その他諸経費はほとんど変わらなかった。

【採算性】

- ・利益率の高い半導体関連の売上高増加により、採算性は良くなった。
- ・採算性はほとんど変わらない。

【設備投資】

- ・5G向けのライン増設の設備投資を実施した。
- ・パソコン機器の更新を実施した。

【今後の見通し】

- ・半導体製造装置の需要は当面続くため、良い方向に向かうとみている。
- ・先行きはどちらともいえない。

(4) 金属製品

【景況感】

- ・半導体関連需要が継続しており、景況感は好況である。
- ・医療機器関連の受注が落ち着いており、全体的に低調が続いている。
- ・一部で自動車減産の影響は出ているが、全体では景況感は普通である。

【売上高】

- ・半導体関連を中心に受注が伸び、売上高が増加した。
- ・医療機器関連が落ち込み、売上高は減少した。
- ・前年同月比で売上高はほとんど変わらない。

【受注単価】

- ・価格転嫁により製品単価は上がった。
- ・価格転嫁は一部のため、全体ではほとんど変わらない。

【原材料価格】

- ・鋼材価格は前年比で40%程値上がりした。
- ・鉄、アルミニウム、ステンレスを中心に鋼材価格が高騰している。

【その他の諸費用】

- ・ヘリウムガスが高騰しており、入手も困難になっている。
- ・電気代の負担が大きくなっている。

【採算性】

- ・価格転嫁により利益率は前年同期比3%改善した。
- ・原材料費高騰の影響で採算性は悪くなった。
- ・採算性はほとんど変わらない。

【設備投資】

- ・塗装作業内製化の設備投資を実施した。
- ・メッキ設備ラインを増設した。

【今後の見通し】

- ・半導体製造装置向けの需要は今後も継続する見通しであり、良い方向に向かうとみている。
- ・需要回復までは時間がかかる見通しである。

(5) プラスチック製品

【景況感】

- ・医療機器、食品加工機器関連の需要が安定しており、景況感は普通である。
- ・自動車関連では、半導体の流通が滞った影響で受注が落ち込んだ。

【売上高】

- ・売上高はほとんど変わらない。
- ・前年同期並みには受注が戻っており、ほとんど変わらない。

【受注単価】

- ・材料費上昇分を価格転嫁したため、受注単価は上がった。
- ・積極的に価格交渉を行い、全体的に単価は上がった。

【原材料価格】

- ・樹脂の価格変動が大きく、高騰している。
- ・前年同期比で2～3割増加している。

【人件費】

- ・不足分を派遣会社で補っており、人件費は増加した。
- ・3月にパートタイム6名を採用した。

【採算性】

- ・生産効率を高めた結果、採算性は良くなった。
- ・既存取引先の仕事は若干減少したが、医療機器関連の受注が増えてカバーできた。
- ・原材料費高騰の影響で採算性は悪くなった。

【設備投資】

- ・物流センターの建設用地を取得した。
- ・5軸のマシニングセンターや加工機を導入した。

【今後の見通し】

- ・来月以降に新規の仕事が入るので、受注が増える見通し。
- ・受注は安定しているが、原材料費の高騰が続いており、どちらともいえない。

(6) 食料品製造**【業界の動向】**

- ・小麦やエネルギー価格の高騰が続いており、対応できない零細企業が増えている。
- ・団体観光客向けの同業者は客足が戻らず、廃業も増えている。

【景況感】

- ・まん延防止等重点措置が解除され、巣籠もり需要も落ち着いており、普通である。
- ・原材料価格の高騰が続いており、不況である。

【売上高】

- ・売上高はほとんど変わらない。
- ・価格転嫁による売上高押し上げも一部みられたが、全体としては前期並みの水準となった。

【受注単価】

- ・原材料価格高騰により6月からパン類の値上げを実施した。
- ・小麦の価格高騰により3月1日から一部商品の値上げを実施した。

【原材料価格】

- ・小麦粉の価格高騰が続いている。
- ・小麦粉に限らず、材料全般の価格が上がっている。

【人件費】

- ・新規施設開業に合わせ従業員を増やしており、人件費は増えた。
- ・評価体系の見直しに合わせ全体で賃金の引上げを実施した。

【採算性】

- ・原材料費高騰分の価格転嫁は一部に留まっており、採算性は悪くなった。
- ・電気代、重油の費用などが高騰しており、採算性は悪くなった。

【設備投資】

- ・DXの一環で工場内にカメラを設置し、製造過程の効率化を図っている。
- ・生産増強及び入替の設備投資を実施した。

【今後の見通し】

- ・受注は安定しているが、小麦やエネルギー価格高騰の影響が大きく、どちらともいえない。
- ・原材料費の高騰が続いており、悪い方向に向かうとみられる。

(7) 銑鉄鋳物**【景況感】**

- ・ダンプやホイールトレーラー部品の受注が好調であり、好況である。
- ・自動車の減産で受注が落ち込んでおり、不況である。

【売上高】

- ・売上高は増加した。
- ・自動車メーカーの生産調整の影響で売上高は減少した。

【受注単価】

- ・原材料価格高騰分を価格転嫁できており、単価は上がった。
- ・一部値上げをしたが、受注単価はほとんど変わらない。

【原材料価格】

- ・鋼材、コークスが高騰している。
- ・原材料価格は前期比、前年同期比ともに上がった。

【人件費】

- ・受注増に伴い、人件費は増えた。
- ・人件費はほとんど変わらない。

【設備投資】

- ・電気炉1台を新規に導入した。
- ・設備投資は実施しなかった。

【今後の見通し】

- ・建機向けの受注が堅調に推移しており、良い方向にむかうとみている。
- ・ウクライナ情勢が不透明であり、どちらともいえない。
- ・鋼材価格高騰が続いており、悪い方向に向かうとみている。

(8) 印刷業**【景況感】**

- ・景況感是不況である。
- ・観光、ホテルの販促費が削減されている影響で受注量が減っている。
- ・まん延防止等重点措置の解除後は仕事が動き出しており、好況である。

【売上高】

- ・店舗内装部門の仕事が伸び、売上高が増えた。
- ・売上高はほとんど変わらない。

【受注単価】

- ・値上げ交渉の結果、単価が上がった。
- ・受注単価はほとんど変わらない。

【原材料価格】

- ・インク含む資材価格が15～25%上昇した。
- ・アルミ、インク、紙など全ての価格が上がった。

【採算性】

- ・価格転嫁が進まず、採算性は悪くなった。
- ・原材料費高騰の影響で更に採算性は悪くなる。

【設備投資】

- ・設備投資は実施しなかった。

【今後の見通し】

- ・取引先の景況感や感染症の動向次第であり、どちらともいえない。
- ・一般印刷の受注が増加傾向であり、良い方向に向かうとみている。

2 小売業

(1) 百貨店

【景況感】

- ・コロナ禍前の水準には及ばないが客足は戻りつつあり、景況感は普通である。
- ・昨年に比べれば回復の兆しはあるものの、コロナ禍前ほどではない。

【売上高】

- ・コロナ禍の行動制限が緩和され、衣料品や化粧品の売上高が伸びた。
- ・まん延防止等重点措置が解除され、食料品販売は前年の巣籠もり需要に比べ減少した。
- ・宝飾品は前年同期並みの売上高となった。

【諸経費】

- ・新卒4人を採用したが全体では自然減となり、人件費は減少した。
- ・イベントやチラシ関連の諸経費が増加した。

【採算性】

- ・昨年耐震工事を実施したため、前年比では改善した。
- ・採算性はほとんど変わらない。
- ・電気代の高騰や諸経費が増加し、採算性は悪くなった。

【今後の見通し】

- ・海外情勢や感染症の収束次第であり、どちらともいえない。
- ・感染症の行動制限が解除されれば、良い方向に向かうとみられる。

(2) スーパー

【景況感】

- ・外食が増え、巣籠もり特需が伸び悩んでおり、景況感は普通である。
- ・景況感は好況である。

【売上高】

- ・冷凍食品の需要が高まった影響で惣菜の販売は落ちている。
- ・行動制限が解除され、外出が増えた影響で衣料品の売上げが伸びたが、食料品は売上高が減少している。

【諸経費】

- ・人材確保のため、賃金を引き上げた。
- ・広告費は抑えているが、今後も人件費は増加する見込み。

【採算性】

- ・前年同期比では、採算性はほとんど変わらない。
- ・電気代高騰の影響で、採算性は悪くなった。

【今後の見通し】

- ・原材料価格の高騰が続いており、どちらともいえない。
- ・家計支出は落ち込む見通しであり、今後は悪い方向に向かうとみている。

(3) 商店街**【景況感】**

- ・昨年に比べれば人出は増えているが、コロナ禍前までは戻っていない。
- ・観光客の来街者が増えており、好況である。

【来街者】

- ・前年に比べて30～40%観光客が増えた。
- ・休日はハイキング客の回遊ルートになっており、来街者は増加した。

【個店の状況】

- ・後継者が若く、工夫している店舗は売上げに反映されている状況。
- ・コロナ禍でも変化がなく、努力していない店舗は厳しい状況が続いている。

【商店街としての取組】

- ・定期的にイベントを開催し、毎回新しい企画を考えている。
- ・感染症が収束するまではイベントは開催できない。

【今後の見通し】

- ・感染症の収束次第だが、良い方向にむかうとみている。
- ・物販は値上がりで買い控えが予想されるが、飲食は改善していく見通し。

3 情報サービス業**【景況感】**

- ・大企業に加え、中小企業に対するデジタル化提案が増えており、好況である。
- ・原材料費高騰の影響で経費削減の一環として、情報化投資の抑制がみられる。

【売上高】

- ・大企業向けの案件が増え、売上高は増加した。
- ・売上高はほとんど変わらない。
- ・デジタル化の需要は落ち着いており、売上高はほとんど変わらない。

【製品価格】

- ・一部価格転嫁を実施したため、受注単価は上がった。
- ・カスタマイズ製品が多く受注内容で異なるが、全体として製品価格は上がった。

【採算性】

- ・電気代の高騰があり採算性は悪化した。
- ・交通費、交際費は増加傾向にあるが、全体として採算性は変わらない。
- ・採算性はほとんど変わらない。

【設備投資】

- ・老朽化機器の設備更新を実施した。
- ・改正電子帳簿保存法対応と伝票類の電子取引データ保存のためのシステムを導入した。
- ・オフィス用品の入替えのみ実施した。

【今後の見通し】

- ・感染症が収束しつつあり、今後は良い方向にむかうとみている。
- ・ウクライナ情勢による燃料費高騰の影響もあり、今後の動向は不明瞭である。

4 サービス業（旅行業）

【業界の動向】

- ・業界全体としてGW明けから問い合わせが増えており、上向いてきている。

【景況感】

- ・景況感は普通である。

【受注高】

- ・昨年も落ち込んでいたため、前年同期比では増えている。

【受注価格】

- ・バスの燃料費高騰分を価格転嫁しており、受注価格は上がった。

【採算性】

- ・受注の増加と価格転嫁により、採算性は良くなった。

【設備投資】

- ・実施していない。

【今後の見通し】

- ・感染症の収束次第だが、良い方向に向かうとみられる。

5 建設業

【業界の動向】

- ・近隣同業で廃業等の新しい動きはなかった。
- ・後継者不在で廃業となった会社はあった。

【景況感】

- ・昨年のような好況感はなく、普通である。
- ・民間工事は減少傾向にあるが、公共工事が安定しており、景況感は普通である。

【受注高】

- ・大型案件も前年並みに受注できており、ほとんど変わらない。
- ・受注高はほとんど変わらない。

【受注価格】

- ・ 価格転嫁により受注単価は上がった。
- ・ 公共工事は原材料高騰分がほぼ価格転嫁されているが、民間工事は一部に留まっている。

【資材価格】

- ・ 1年で資材価格が4割程上がった。

【採算性】

- ・ 鉄骨の価格高騰で、採算性は悪くなった。
- ・ 資材価格の高騰に価格転嫁が追いつかず、採算性が悪くなった。

【今後の見通し】

- ・ 上海ロックダウンの影響で資材不足や価格高騰もあり、どちらともいえない。
- ・ 資材価格や不動産価格の高騰で買い控えの動きも予想され、どちらともいえない。